

第30回 飛水クラブぎふ 作品コンクール

作品集
2022



飛水クラブぎふ
(一般財団法人 岐阜県老人クラブ連合会)

● 目 次 ●

美術作品	● 日本画	2
	● 洋 画	8
	● 工芸・彫刻	11
	● 書	17
	● 写 真	20
文芸作品	● 短 歌	26
	● 俳 句	29
	● 川 柳	33

《後 援》

岐 阜 県
岐 阜 県 議 会
岐阜県教育委員会



日本画

洋画

工芸・彫刻

書

写真

文芸

美術作品

日本画

※審査員 櫻井 正信 氏

優秀第一席



参 道

羽島市

中川 ゆう

全体的に色彩が統一されて画面が安定しています。石段の奥行きに向かって朝霧が見られ、午後には晴天になるという雰囲気が出ているのが幻想的です。

優秀第二席



新しい芽吹（ユズリハ）

岐阜市

井上 勝

画面が縦長の構図を更に細長いサイズにしたことによって木が伸々と成長している感じが良い。画面の明るい部分や余白をもう少し考えるとさらに良いと思います。

優秀第三席



待春の里

土岐市

伊藤 銈子

墨の濃淡と雪の表現が良い。画面の中で遠近感を出すために手前の石垣を強く描いたのはいいが、肝心の家の印象が弱くなったこと、また、山が安易に描かれたのが惜しいと思います。



東大寺の椿

岐阜市 岩田 貞子



室生寺

羽島市 青木 清



帝釈峡

羽島市 浅野 俊子



人形浄瑠璃

瑞穂市 佐倉 富美子



芍 薬

大垣市 杉本 たず子



静寂

大垣市 萩野 民男



小判そう

大垣市 佐藤 美智子

● 美術作品 ●

洋 画

※審査員 青木 年広 氏

優秀第一席



化成工場

海津市

田中 泰彦

工場の複雑な構成がしっかりと描き込まれている大作です。金属が暖かく見えるうえ力強さもあり、とても好感が持てます。

優秀第二席



秋色に染まる養老

大垣市

杉原 朱實

石垣の影の色がやや気になりますが、人工物の力強さと紅葉の自然の迫力ある色がうまく調和していて、奥に引き込まれるような魅力があります。

優秀第三席



新緑の上高地田代池 (湿原)

大垣市

玉井 紀之

日差しの中に緑が美しく丁寧に描かれています。田代池の静寂感とピタッとした水面が描き上げられています。透明感があり良い水彩作品です。



対 走

笠松町

岩田 忠明



溜息の橋

海津市

清住 弘志



めおと滝

郡上市

伊藤 清美



帆船 (サンドイッチ号)

瑞浪市

西尾 猛成

● 美術作品 ●

工芸・彫刻

※審査員 入山 千穂子 氏（工芸）
松岡 まち子 氏（工芸）
森島 昭道 氏（彫刻）

優秀第一席



工芸・彫刻

神社

恵那市

鈴木 香

立派な神社が細部にわたり作られています、どこかの神社か、それとも作者が設計されたのでしょうか。材料の切り方も丁寧で隙間もなくきれいに出来上がっています。

優秀第二席



馬籠にて（白刻）

大垣市

佐藤 直人

白刻というように白い建物がこれでもかこれでもかと細かいタッチで作られています。馬籠の切道を歩いている人の様子もいいです。

優秀第三席



蓋つき練り込み鉢

笠松町

杉山 武彦

菓子鉢が練込みで作られた上品な一品に仕上がっています。色も柔らかで、のほほんとした感じで好感が持てます。特に蓋の中心に窪みを持たせたところは小品ながら作者の思いが見えます。

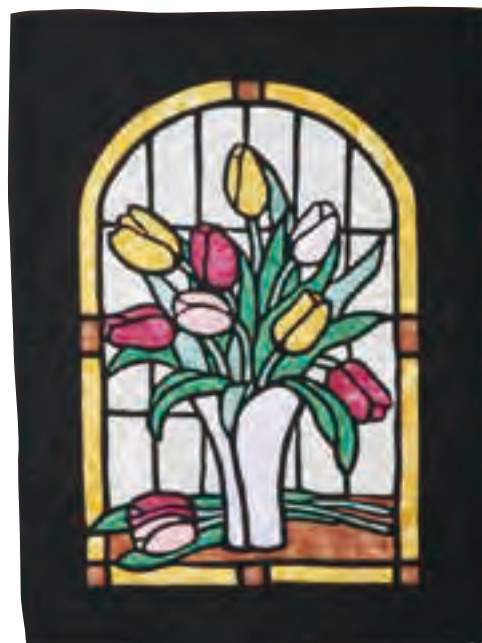
優秀第四席



尾長鶏

土岐市
井野 太郎久

優秀第五席



タペストリー

郡上市 丹羽 フミ

奨励賞



猿田彦命（彫刻）

大垣市 和田 悟

奨励賞



獲物を狙う猫（彫刻）

各務原市 野倉 光春



てまり 6点

岐阜市 篠田 トモ子



クラフトテープの六ッ目編み籠

岐阜市 後藤 康子



布のフラワー

羽島市 加藤 日出子



木目込み人形大黒ゑびす

瑞穂市 森 豊子



なかよくくまさん

瑞穂市 加藤 悦子



古布リメイク 2点

瑞穂市 石田 きみ子



能 面

笠松町 佐藤 慎治



布バッグ

笠松町 山田 ひさ子



八方睨み鳳凰図より刺子

笠松町 野々垣 美知子



かごめかごめ

笠松町 奥田 豊子



押し絵「キモノフォレスト」

大垣市 佐久間 靖子



お帰り！ 3年ぶり

大垣市 宮川 嘉隆



露の窓

大垣市
大橋 龍治



三ツ柏

大垣市
河合 将司



御雛様の集い

大垣市 矢代 由美子



小物袋

海津市
稲田 悦子



ちぎり絵「あじさい」

海津市 伊藤 由美子



不思議なフワフワトンボ

郡上市 江本 正年



皿

郡上市

中屋 保則



糸のこ工作と花台

恵那市

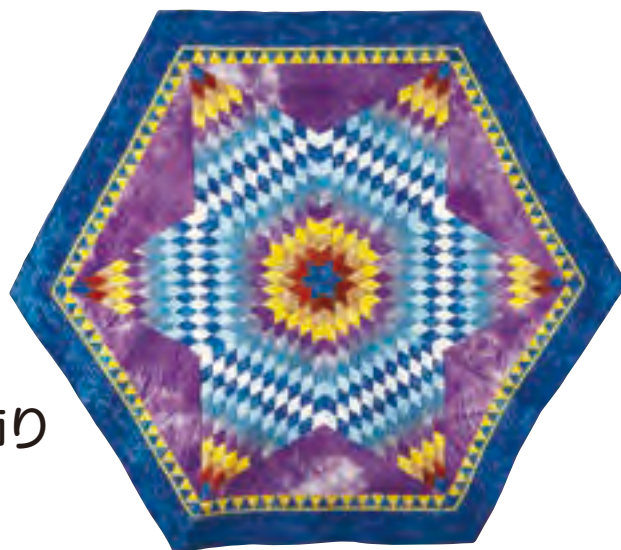
伊藤 春政



秋のつるし飾り

恵那市

保母 綾子



パッチワーク「星の輝き」

瑞浪市

有賀 咲子



ふくろう

恵那市

安藤 登志子



小さなタペストリー

土岐市

安藤 よし子

美術作品

書

※審査員 早川 修 氏



優秀第一席

枕草子

土岐市 曾我 かつ江

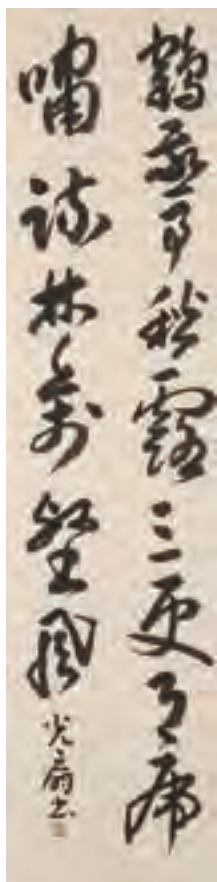
細く長い線に対しても決して
怯むことなく表現できています。
欲を言う、もう少し太い線を
交え、と山場を強調した表現に
なるので、ぜひ挑戦してみてください。

優秀第二席

筆を大きく動かした草書作品です。文字の長短・線の太細がうまく表現できていると思います。草書体ですが、三文字目「秋」の一画目から二画目へのつながりが切れて見えます。また、二行目四文字目「萬」の始筆が不自然に感じます。

大垣市

長澤 春子



章宗以下金

優秀第三席

金地に「月」が表現されています。字句のごとく窓から眺めた「月」が金色に輝いている景色が見て取れます。ただ「月」の一画目の下部は、これほど細くしなくても・・・とも思います。

大垣市

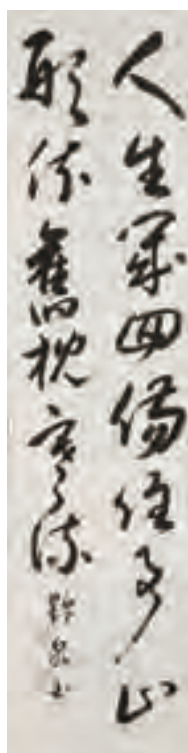
田中 令子



窓の月

優秀第四席

中津川市
瀬瀬 つる子



漢詩「人生幾回か往事を傷む」

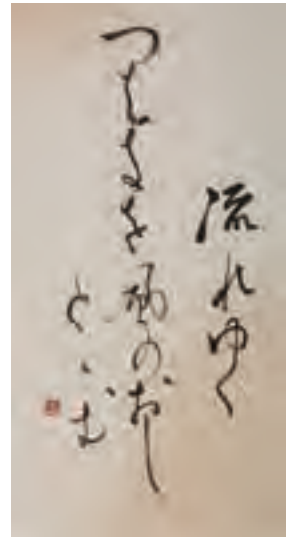
優秀第五席

大垣市
河合 栄子



かきわきの...

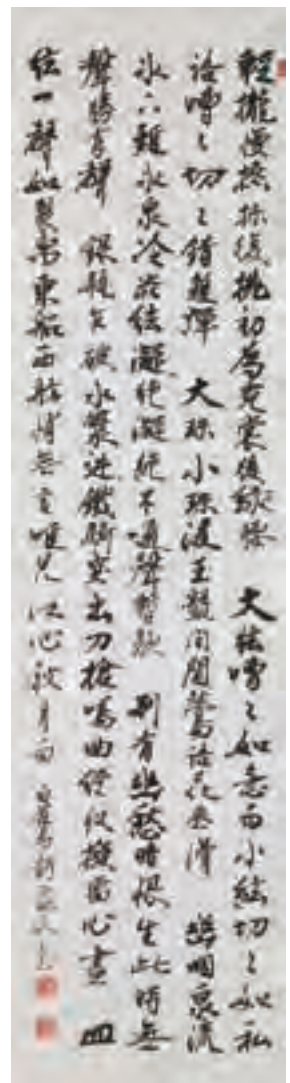
「松本たかし句集」より



大垣市

福岡 篤子

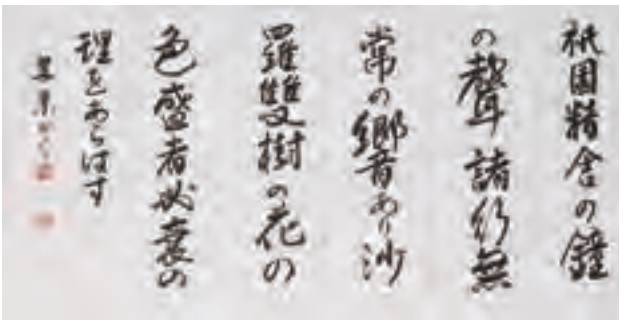
「輕攏慢撚」 白居易詩



中津川市

松田 龍仙

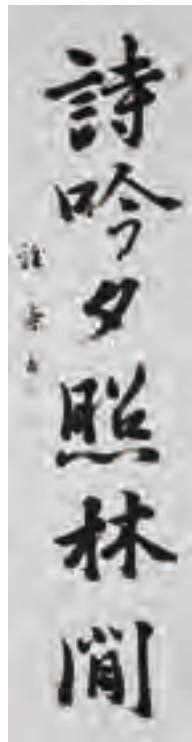
平家物語



岐阜市

加納 敬子

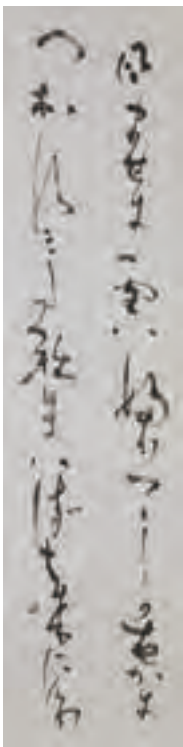
中国の詩「詩吟夕照林間」



瑞穂市

川出 雅子

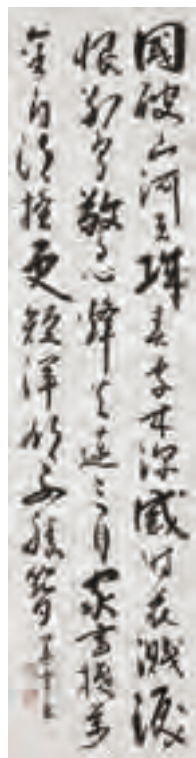
新古今和歌集



岐阜市

吉村 由美子

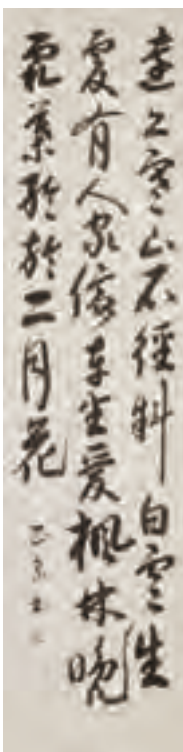
漢詩「春望」 杜甫



中津川市

田口 美幸

山行



大垣市

早野 正美

美術作品

写真

※審査員 安藤 茂喜 氏

優秀第一席



春うらら

羽島市

富田 昇

一見、絵画なのかと思わせる作品です。赤と黒の波紋がリズムカルに写っていてとてもきれいな作品です。欲を言えば桜の枝は入れなくてもよかったような気がします。

優秀第二席



激流に挑む

羽島市

奥田 輝子

.....

激流を下るラフティングの場面を大胆にトリミングしたことで人物の顔や水しぶきに迫力が出ました。

優秀第三席



淡い香り

瑞穂市

野川 速雄

.....

手前に花を配置して暗いバックには流れ落ちる水を写し込んだ構図が上手いです。全体に淡い作品に仕上がっていて良いです。

優秀第四席



里の昼下がり

岐阜市 中井 孝弘

優秀第五席



だるま供養

神戸町 馬淵 公明



背くらべ

岐阜市 可児 芳春



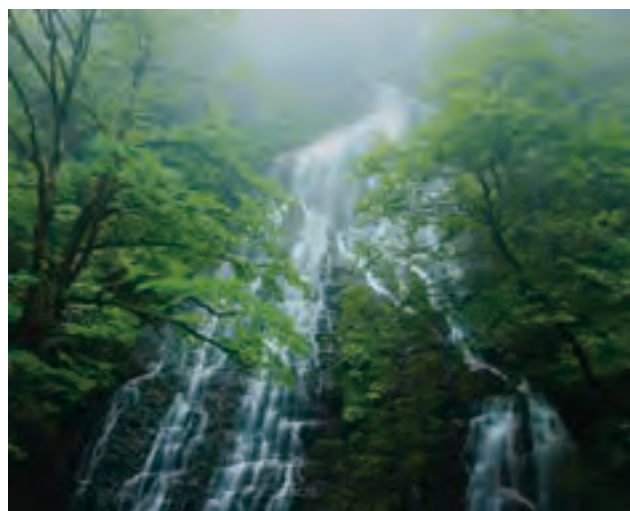
紅葉

羽島市 森 弘子



牧場の朝

笠松町 岡本 省三



新緑の滝

大垣市 渡邊 宏



寒 行

養老町 草野 次雄



愛の告白

恵那市 安藤 秀美



雨の路地

中津川市 嶋倉 鉦藏



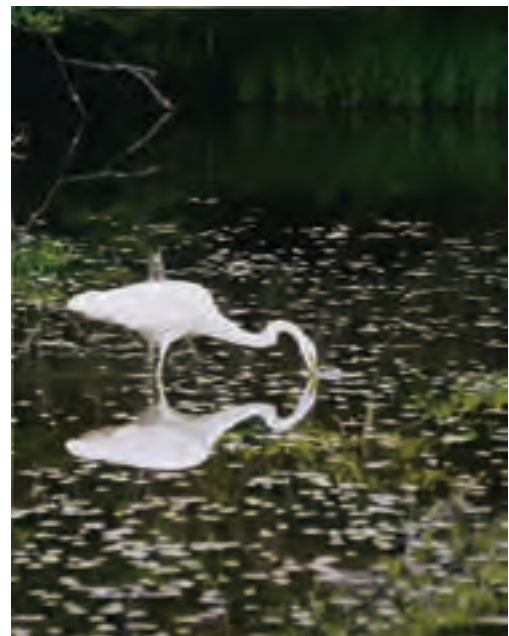
盆の送り火

中津川市 梅田 荘一



夕映え

中津川市 熊澤 一郎



水面に映った私

瑞浪市 棚橋 義光

● 文芸作品 ●

● 短歌

● 俳句

● 川柳



短歌

※審査員 後藤 左右吉 氏

優秀第一席

梅を干す大きなザルの片隅に
屋号書かれし亡き父の字で

中津川市 田口 美幸

時代を経てもつながる家族の血縁を具体的な一点「ザルに残る屋号」
で詠んでいて見事。

優秀第二席

冷や麦は昼の定番湧き水に
たっぷり浸し夏を啜りぬ

大垣市 棚橋 道子

定番の冷や麦を湧き水に浸して食べる。決して豪華ではない食事だが「夏を啜」って満ち足りているのだ。

優秀第三席

お月見の団子に茅に穂芒を
供えるに雨、然も土砂降り

関市 山田 真詩

せつかくのお月見、準備万端整えたのに雨。うらめしい気持ちだが「然も土砂降り」によく出ている。

優秀
第四席
水張田は遠くの山を写し出す
五位鷺の来て稜線崩す

関市 白井 八十美

優秀
第五席
うべないて人の話にさからわず
聞く身となりし我も老いたり

養老町 高木 美代子

故郷の山と見紛う絵画展

風雪の日々中学時代よ

岐阜市 船渡 恵

散歩するいつもの人の通る道

大樹の枝に蝉の声聞く

岐阜市 小木曾 悦子

槍ヶ岳頂上に立つ三男の

画面に写る表情遅まし

羽島市 水谷 廣子

笑み微か施設の友は吾を見るも

浮遊するがにうつつな眼差し

羽島市 中川 夕甫

終活の片付けしつ手止まり

過去の想いが溢れ出て盛る

各務原市 荻谷 哲生

戦闘機笑顔浮かべて我れ狙う
命拾いの願う平穩

各務原市 岩田 数美

夫婦とも歳とり畑の土起こし

難儀となりて思案にくれる

大垣市 佐竹 三千雄

里人の辻を見守る地藏尊

フリルをつけて頭巾を縫いぬ

大垣市 高橋 久子

短命に終りし父母の分までも

ひと日ひと日を大事に生きん

大垣市 富田 洋子

枯碑立つ寄り添い植し染井の木

継ぎ過ぐ郷の標成れやと

大垣市 安田 一

ふる里をスマホに詰めて孫帰る

庭に名残の雪だるまかな

大垣市 落合 守人

水門川の桜咲けども川下る

タライ舟みず花いかだのみ

養老町 村上 やす子

「ホーケキヨ」と鳴き声聴いて癒されつ
庭の草取り仕事捗る

養老町 清水 康子

爽やかな秋の日浴びて稔る田の

垂るる稲穂に群れ飛ぶ蜻蛉

神戸町 早津 郁男

過ぎし日の企業戦士でありし君

ディサービスを勤めと思ひ

関市 土本 スミ子

ささやかにふたり暮らしのそばを食む

年越しの夜の雪降りしきる

関市 近松 壮一

わが名前と同じ字と知る^{むべ}柳子の花

ほのぼのと見る百済寺に来て

関市 篠田 郁子

勤め止め^やトマト農家を継ぎし子の

気になる圃場玉の光りて

中津川市 三浦 要

窓越にナンジャモンジャの白い花

程よく咲いて老いを慰む

中津川市 今井 英雄

嫁ぐ吾に母渾身の想い籠めし
桑の鏡台木肌の美し

中津川市 今井 和子

口ひろげ笑っているかの^{いがり}稗栗に

つまずかぬよう栗拾いゆく

中津川市 片田 久子

七十七の手習いなるぞたつぷりと

墨含ませて「うみ」と書きたり

中津川市 田口 享子

夫と共に眼科整形午後歯科と

安気に巡る雨農休日

中津川市 中島 さち子

手のかかる我を夫はドライブに

連れ出しくるる笑顔が嬉し

中津川市 片田 百合子

地下鉄のエスカレーターやれ嬉し

かつては階段駆け登ったに

中津川市 嶋倉 みどり

うす紅に大^{いぬたで}夢の花は野辺に咲き

子らは遊べる頬染めながら

中津川市 小島 裕子



俳句

※審査員 田中 青志 氏

優秀第一席

花火果て闇動き出す堤かな

大垣市 今津 絹代

花火が終わって人、闇が動き出すという俳句は多いが、堤が動き出すという表現は見たことがありません。花火大会は概ね河原で開かれることが多く、花火が終わって動き出すのは堤を歩き出す人だから、「動き出す堤」とは止まっている方が動くという錯覚に捉われた状態といえます。その錯覚で堤が動き出したという表現がこの句を新しいものにした成果です。誰もが見たり感じたりすることをまだ誰も書いていないところで書くのが発見であり、すでに誰もが書いていることを書いてもそれはもう古いのです。新しさ、自分らしさを書くようにしたいものです。

優秀第二席

稲妻や白帝城を狙い撃つ

各務原市 浅野 昭

中国重慶にあった古城に似ているとして国宝犬山城の別称となっている白帝城。城攻めを思わせる閃光がその「白帝城を狙い打つ」というのは戦国時代を思わせる描写です。美しい城郭を二つに切り裂く稲妻は、平和な世なればこそ
の表現で、この世界では、このような地球戦が絶えないのが現状です。こんな
世にならぬことを祈る稲妻の狙い撃ちはここだけにして欲しいものです。

優秀第三席

柿若葉影に双子の乳母車

大垣市 早崎 美弥子

若葉の中でも柿若葉は特に新鮮で、乳母車の双子の子を配するには恰好の描写に思います。同じ服を着せて一目で双子と分かる姿も可愛いですが、その乳母車を押す人の幸せそうな顔もまた魅力的に感じます。ほやほやの柿の若葉、ほやほやの双子の乳飲み子、目に入れても痛くないほどの優しさが抜群の取り
合わせだと思えます。

優秀
第四席 山開く法螺唳はらりうりとこだませり
養老町 大橋 正典

優秀
第五席 旅プラン全て叶はず年暮れる
関市 林 芳 榮

佳作 衣更へて昨日と違ふ今朝の声
大垣市 新町 恵子

佳作 濃あぢさゐの雲こぼるる机上かな
大垣市 高瀬 鈴子

佳作 この家を離れず老いて新走あひざり
各務原市 多和田 瑠璃

老嫗の背負ふ若布や外房線

岐阜市 長屋 壽

古希すぎて残る若さや更衣

岐阜市 山下 喜代子

嫌ふ微美味しい味へ変へるなり

岐阜市 小原 照吉

日の丸を掲ぐ横丁秋彼岸

岐阜市 坂本 好子

巢こもりの扉開くや龍天に

岐阜市 奥田 雅章

友逝いて受け止めがたし沙羅の花

岐阜市 寺田 雅子

若き日の交換日記紙魚走る

岐阜市 辻 雅宏

蝉時雨聞けば安堵の日となれり

岐阜市 福井 美保幸

戦なき地向日葵の煌々と

岐阜市 福迫 一美

廃線の草茂る様勇ましき

岐阜市 伊藤 洋子

さりげなく終のことなど鮎を焼く

岐阜市 岩田 貞子

羽黒とんぼ鈴竹の葉は擦れの夕間暮

岐阜市 後藤 康子

鈴虫やお湯に浸ると聞こえけり

岐阜市 松久 康子

蝉よ鳴け鳴けよ鳴け鳴け果てるまで

岐阜市 船渡 恵

末うれに積むふはりふんはり牡丹雪

各務原市 甲谷 峰子

深緑を目いっぱい写し登る坂

各務原市 有間 崇生

友逝ゆきしとみにめでたる半夏生はんげしょう

各務原市 澤井 紀子

芽吹き枝小鳥よりそう青き空

各務原市 山下 知喜子

古いにしへの着物たたみて捨ておしむ

各務原市 大塚 マリ子

戦場の悲惨なる花火音

各務原市 荻谷 哲生

戦時中共出した日桑の皮

各務原市 岩井 嘉子

一面に黄金の穂波秋澄めり

各務原市 野田 智恵子

追憶の夜長染しや猪口二つ

各務原市 岩田 靖

夕暮や一陣の風秋まじる

各務原市 岩田 香代子

赤蜻蛉追ひつ追はれつ天に消ゆ

各務原市 杉山 民子

金華山あかぎ藜の杖に身を托す

各務原市 岩田 数美

伊吹嶺の四方を鎮めて山眠る

大垣市 伊藤 英司

風薫る頼朝偲ぶ瀧山寺

大垣市 大西 誠一

結願の杖緑蔭に納めけり

大垣市 日比野 友子

リズムよく漕ぐ自転車に東風強し

大垣市 福岡 篤子

日毎夜毎スイカの蔓の速さかな

大垣市 在間 琇子

木を揺らし林を揺らす蝉しぐれ

大垣市 渡辺 文博

朽ちるかに見えて白梅匂いけり

大垣市 鶴巻 タケノ

花筏だ流れ集いし結びの地

大垣市 長江 稔二

もう来たね去年のねぐらにつばくらめ

大垣市 多和田 一徳

そつと寄りすつと去りゆく青葉風

大垣市 浅野 正

輝きのフレイル体操街薄暑

大垣市 川出 久美子

竿先に背鳍ひかりて鮎躍る

大垣市 石垣 真里子

初夏の風背中押されて振りかえる

大垣市 林 みき子

良き友と送りし余世つゆ晴間

大垣市 長澤 久夫

夏シャツや市長も体操ハツラツと

大垣市 富田 洋子

庭先に貰ひし小菊香りけり

大垣市 日比 昌子

夏蛙撒き水避けて庭の隅

大垣市 廣瀬 陽子

春愁や病む友へ書く長き文

大垣市 上田 正衛

動く度ドッコイシヨの去年今年

大垣市 小松 秀雄

病癒えし夫の手を引き初詣

大垣市 奥田 和子

田植時畔に並びて握り飯

大垣市 奥田 義明

栗の花紙縋の如し雨傘

大垣市 矢代 由美子

二才児や腰をおとして段降りる

大垣市 西村 勝子

ひじき煮の記憶力良し夕餉かな

海津市 伊藤 みゑ

虫干しの縦書き多き明治の書

養老町 安福 隆司

初なりの茄子黒々とぶら下がり

神戸町 高田 和郎

^{ひと}は
一刷けの雲棚引きて実る秋

神戸町 早津 郁男

偲ぶれば母の面影芋莖むく

関市 長尾 伎与子

柏餅孫割り込んで捗らず

関市 鷺見 浅子

原爆忌オバマ広島訪ねけり

関市 小石 正兄

厚化粧雪を冠った松映える

関市 林 一一

独り居の粥七草をひとつまみ

関市 山田 文子

譲り受く古書に木の葉の葉あり

関市 岩田 幸子

着ぬと泣き脱がぬと泣きて七五三

関市 土本 スズ子

五月雨や晴間となりて傘の杖

郡上市 和田 亮寛

今もなほ被爆の叫び広島忌

土岐市 松尾 勝行



川柳

※審査員 武山 博 氏

優秀第一席

平坦な路に明るい音を足す

各務原市

荻谷 哲生

「明るい音」という言葉の用い方が、この句を一席にした一番の理由です。普通に思いつくのは「明るい声」でしょう。子供の通学の声、ご近所さんの声、郵便配達のオートバイの音などすべてが、暮らしを明るく感じさせてくれますが、それは四車線もあるような大通りではなく、対向車が停まって待っている程度の道でしょう。

優秀第二席

一寸降りや自然破壊のつけがくる

神戸町 早津 郁男

最近の災害の多さが詠みこまれています。文明の発展は地球的な環境破壊を伴っています。そのため甚だしい気候変動を起こし、海水の量や温度が異常に変化し、自然環境を壊しているそうです。下旬の「付けがくる」で全部人間の所為であることを表現しています。スケールの大きな句です。

優秀第三席

甘言に払った高い授業料

岐阜市 弓桁 英二

新聞のニュースには毎日「特殊詐欺」の記事が掲載されています。テレビやラジオ放送も同様です。手口がほとんど同じであるにもかかわらず、どうして大勢が引っ掛かるのでしょうか。「私は大丈夫！」が一番危ないそうです。それにしても、皆さんお金持ちなんですね。高い授業料でも払ってしまえるのですから！

優秀
第四席

80を超え癌とコロナの挟み撃ち
大垣市 伊黒敬雄

優秀
第五席

喜寿を過ぎ私の宝仲間たち
大垣市 奥田義明

「BA・5」オミクロン株世界が市場

岐阜市 船渡 恵

にこにこ本音隠して妥協する

岐阜市 可知 百合子

近頃は読むより観るにシフトする

各務原市 古川 豊

変はる世も義理人情は忘れない

各務原市 岩田 数美

琵琶の実をくわえ飛び立つ鳩の群れ

大垣市 福岡 篤子

忘れ物とりに戻ればまた忘れ

大垣市 内藤 考司

コロナ禍のご機嫌伺いやつとかめ

大垣市 堀 吉則

台の前話す言葉がふるつて

大垣市 森 美津子

ポイントで団扇もらってあぶたれる

大垣市 富田 洋子

「お若いね」言われ買ったよ旅土産

大垣市 奥田 和子

我が顔バーコードからQRコードへ

大垣市 宮川 嘉隆

米寿越し委託の田畑淋し秋

神戸町 村瀬 昇一

我が家では妻がキャプテンボク補欠

関市 藤本 二郎

コロナ禍や旅や馳走は何時のこと

関市 船戸 武男

書き忘れ思い出したがペン忘れ

関市 北川 一秋

草を引く蛙と目が合い手伝って

関市 杉山 美知子

優秀第二席

一寸降りや自然破壊のつけがくる

神戸町 早津 郁男

最近の災害の多さが詠みこまれています。文明の発展は地球的な環境破壊を伴っています。そのため甚だしい気候変動を起こし、海水の量や温度が異常に変化し、自然環境を壊しているそうです。下旬の「付けがくる」で全部人間の所為であることを表現しています。スケールの大きな句です。

優秀第三席

甘言に払った高い授業料

岐阜市 弓桁 英二

新聞のニュースには毎日「特殊詐欺」の記事が掲載されています。テレビやラジオ放送も同様です。手口がほとんど同じであるにもかかわらず、どうして大勢が引っ掛かるのでしょうか。「私は大丈夫！」が一番危ないそうです。それにしても、皆さんお金持ちなんですね。高い授業料でも払ってしまえるのですから！

